

# 2019年度活動報告

## はじめに

2019年度をもって引退馬協会は設立から10期を終了しました。支えてくださっている会員の皆さま、ご寄付やボランティアを通じてご支援いただいている皆さまに、心より御礼申し上げます。引退馬支援に対する社会の意識は定着しつつあり、JRAを筆頭に馬関係者も巻き込んだ大きなムーブメントとなりつつあります。同じ気持ちを持つ多くの人の知恵を結集して、今後の引退馬支援が後戻りすることなく、前に進めていけたらと考えています。

その一方で、タイキシャトルの鬣切断事件、記録的な暴風となった台風15号、各地に河川氾濫をもたらした台風19号、そして年が明けてからの新型コロナウイルス感染症と激動の一年で、危機管理の重要性が改めて問われました。生活基盤がゆらぎ、引退馬支援を断念せざるを得ない方や、馬の譲渡先の生活に大きな影響があり、譲渡を受けた馬をも手放さざるを得ない方も出てきました。事務局では、業務の分散化を目指すとともに、災害時に繋養施設へ問い合わせが集中しないように、馬の安否確認をする担当者を決めた連絡網を整備しました。

## 収益事業の税務申告について

啓発グッズやカレンダーの販売、引退馬ネットのサポート事務手数料、セミナーや上映会の参加費は非営利活動の中で行っているという解釈のもと、税務申告の対象にならないと考えていましたが、NPO法人の会計に詳しい方からのアドバイスがあり、税務署に相談したところ、非営利活動内においても啓発事業のグッズの販売、セミナー参加費、上映会参加費、FP事業のカレンダーの制作販売、引退馬ネットのサポート事務手数料は税務申告の対象となることがわかりました。これを受けて、2014年度から2018年度の会計について税務申告と納税を完了しました。国税については認識不足で悪意がないものとみなされ、追徴課税はありませんでしたが、法人地方税については延滞金がかかる見込みです(2020年6月末現在未確定)。

各事業に関する詳細を以下に報告いたします。

### 1) 馬と人のふれあい事業

この事業は、フォスターホース(以下、FHと記載)たちの体験騎乗や、手入れ、ツアーなどでのふれあいを通じて馬の温もりに接し、馬という動物についてより知っていただき、親しんでいただくために行っています。

千葉のフォスターホースの預託先である乗馬倶楽部イグレットで重要なイベントとして行っている「FHと過ごす日」や、全国各地に預託しているFHたちとの自由訪問でのふれあいの他、安全指導を含む馬との接し方・乗り方の講習会の開催、及び、FHにゆかりのある牧場や引退競走馬たちを訪ねる見学ツアー等を実施しています。

また、「再就職支援プログラム」では、引退競走馬の初期馴致を行い、適材適所への譲渡活動を行っています。

### ① 「FHと過ごす日」の開催及び騎乗指導と講習会

2019年度は年間で計5回の「FHと過ごす日」を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の防止から、2月と4月の開催の中止を余儀なくされ、3回の実施となりました。そのうち8月の開催では毎夏恒例の一品持ち寄りバーベキューとの同時開催とし、会員同志が親睦を深めました。体験騎乗ではハリマブライトやコアレスピューマが活躍しました。進行補助や送迎、レポートなど、たくさんの方にボランティアとしてご協力いただき、改めて御礼申し上げます。



コアレスピューマで騎乗体験

### ② 専門家を招いての指導

「FH と過ごす日」の開催に合わせて、馬の専門家を招いて馬への理解を深める活動を行っています。エクイエンス株式会社の藤本美芽氏やイグレットのインストラクターの岩城玲子氏を講師に迎えたミニセミナーでは、裏掘りの仕方や全体的な馬体ケア、引き馬について、馬の気持ちに寄り添った方法をレクチャーしていただき、大変有意義な時間となりました。



岩城インストラクターによるミニセミナー

### ③ 「引退競走馬再就職支援プログラム」による安全に接することができる馬の調教「再就職支援プログラム」の実施と卒業生見守り

再就職支援プログラムは、引退した競走馬に対し、人と穏やかに暮らすための馴致調教を行うプログラムです。人間に引かれてゆっくり歩くことができる練習や、乗馬としての常歩・速歩・駈歩を指示通りにできる基礎的な運動などを通しておおよその馬の性格や能力を把握し、それぞれの馬に適した場所へ譲渡することを目指し、譲渡する馬と譲渡先とのミスマッチを防ぐために大変有効なプログラムと考え、継続して行っています。

	馬名	プログラム期間	調教施設	譲渡先(繋養先)
17期生	エリモアラルマ	2019/3/31-10/18	群馬県 かなやま森林馬事公苑	熊本県の乗馬施設
18期生	ケイウンニシキ	2019/4/26-11/29	北海道 星野ライディングクラブ	北海道 南幌ライディングパーク
19期生	チャツミムスメ	2019/4/26-継続中	北海道 エクワインファーム	未定
20期生	フジノシラユキ	2019/4/27-10/18	群馬県 かなやま森林馬事公苑	大阪府・乗馬クラブ FRT
21期生	マリネリス	2019/9/19-継続中	群馬県 かなやま森林馬事公苑	未定
22期生	ゴットフリート	2019/10/19-継続中	群馬県 かなやま森林馬事公苑	未定

23 期生	プライムセラー	2019/12/14-継続中	福島県 厩舎みちくさ	未定
24 期生	マイネルラブティス	2020/2/1-継続中	北海道 星野ライディングクラブ	未定

2019 年度は、前年度からの継続馬も含めて過去最多となる 8 頭がプログラムに参加しました。馬を生かしたい方の想いを受けてのプログラムのため待機馬の待機期間をできるだけ短くするべく、再調教支援プログラムの実施施設も4ヶ所で同時進行しています。

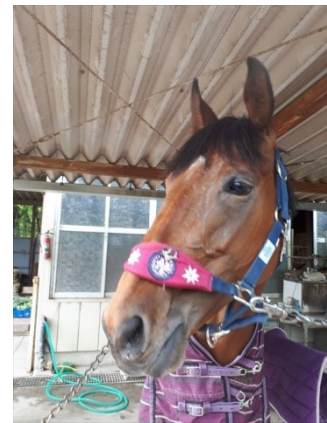
【2019 年度のプログラム卒業生】



エリモアラルマ



ケイウンニシキ



フジノシラユキ

【2020 年 6 月 現在、継続中の馬たち】



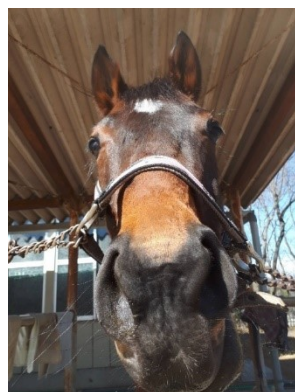
チャツミムスメ



プライムセラー



マイネルラブティス



マリネリス



ゴットフリート

今までもプログラムに入るまで待機している牡馬が去勢手術を受ける際の助成をしてきましたが、これに加え、待機期間中の怪我や傷病治療費の負担軽減のために医療費助成が始まっています。

2019年度は現役時代の怪我等の影響が出ている馬も複数おり、そのような馬たちの譲渡先を探すことが大きな課題となりました。マリネリスについては乗馬への転向を断念することになり、コンパニオンやふれあいホースとしての道を模索することになりました。

また、新型コロナウイルスにより、馬の視察・試乗等が全面的に停まってしまい、チャツミムスメはいつでも譲渡可能な馬がいるにもかかわらずプログラムを卒業できずにいます。体も丈夫で真面目な馬なので、譲渡先にお心当たりのある方はお知らせください。

#### ④ 馬の養老施設視察・作業ボランティアツアーの実施

実施しませんでした。

#### ⑤ 引退馬による「馬のいる風景」を守る取り組み

実施しませんでした。

#### ⑥ 北海道ツアー

9月6日～8日の2泊3日で、会員39名とスタッフ3名の総勢42名で北海道ツアーを実施しました。フォスターホースやサポートホースの繋養施設とフォスターホースのお墓参りのほか、社台スタリオン、ブリーダーズスタリオン、ビッグレッドファームを訪問させていただきました。

団体受け入れの準備や対応、トイレの利用などもさせていただいたフォスターホース・サポートホースの繋養先にはツアーの協力金として、会から施設利用料を払いました。今後は受益者負担の観点から、参加者のみなさんにご負担いただくことを考えており、どの程度の負担をしていただくかは今後の検討課題としています。



沖田忠幸牧場にて



懇親会の様子



渡辺牧場にて

#### ⑦ 「引退馬の眠る丘」プロジェクト準備

日本各地で亡くなった引退馬たちを、馬産地・日高で供養できる場所を作れないかとの思いから考え始めた「馬の眠る丘」プロジェクトですが、動くための足掛りが見つからず保留となっています。

## 2)啓発事業

年4回(季刊)発行している会報「RHA 通信」の他に、会の知名度を広め、引退馬についての関心を高めるため、インターネットでの情報発信や、写真展の開催など、さまざまな形での啓発活動を行っています。

### ① 引退馬に関する情報発信・各種広報活動

フォスターホースの近況や再就職支援プログラムの調教の様子、預託先情報の掲載などのホームページやSNSで発信しました。

### ② 会報(RHA 通信)・活動報告書の発行と送付(印刷版・PDF 版)

正会員(一般会員・FP 会員)、後援会員と、賛同会員のうち会報購読を希望された方に、8 月、10 月、2 月、4 月の年 4 回、「RHA 通信」を郵送、WEB 閲覧を希望した方へはメールで配信しました。省資源の観点から 2018 年度から WEB 閲覧を登録している方については郵送を停止させていただいています。会員専用ページのより一層の充実を図ることにより、満足度の高いコンテンツをお届けできるよう努力して参ります。

### ③ 啓発活動としての写真展等開催

2019 年度度の啓発イベント

開催日時	イベント名・開催場所	内容
2019 年 10 月 14 日	サンクスホースデイズ 主催:財)ホースコミュニティ 東京競馬場	トークイベント 「馬を引き取るということ～経験者に聞く」 佐々木祥恵氏・岡本義徳さん 展示・物販
2019 年 11 月 15 日	第 19 回 引退馬フォーラム 主催: 財)ホースコミュニティ Gate J. 東京・新橋	トークイベント 「馬を引き取るということ～経験者に聞く」 赤見千尋氏・堤千里さん 展示・物販
2019 年 12 月 18 日	引退馬の余生 16 啓発活動&協賛レース 川崎競馬場	展示・物販 協賛レース「引退馬協会ナイスネイチャ賞」
2020 年 1 月 16 日～ 20 日	第 4 回ホースメッセ YOKOHAMA 横浜・赤レンガ倉庫	トークイベント 「練習馬を終の棲家へ～ホーストラスト鹿児島 代表に聞く～」小西英司氏 預託先情報の展示・物販

2020年1月29日	引退馬の余生 17 啓発活動&協賛レース 川崎競馬場	展示・物販 協賛レース「引退馬協会タイキシャトル賞」
------------	----------------------------------	-------------------------------

2019年度も、会員の櫛野泰孝さんを中心に川崎競馬場で啓発イベントを開催しました。櫛野さんのご尽力でサポートホースの展示パネルも一新し、引退馬協会の活動や関わっている馬たちの紹介パンフレットの配布や、協賛レースを実施しました。

一般財団法人ホースコミュニティ主催のイベントにも参加させていただきました。10月に東京競馬場で開催されたサンクスホースデイズは、台風19号の影響の残る悪天候の中ではありますが、物販やパンフレット配布のほか、「引退馬を引き取るということ～経験者に聞く」をテーマに、実際に馬を引き取っている競馬ライターの佐々木祥恵氏と、会員でビッグゴールドサポーターズクラブの代表の岡本義徳さんにお話を伺いました。

11月には同じテーマで Gate J.(東京・新橋)の引退馬フォーラムで「馬を引き取るということ～経験者に聞く」と題したトークイベントを行い、現役時代にファンだった馬を再就職支援プログラムへ繋いだ会員の堤千里さんから経験談を伺いました。

2020年1月16日～20日には、横浜・赤レンガ倉庫で開催された「第4回ホースメッセ 2020」に参加しました。昨年の倍のスペースにブースを設け、引退馬の繋養先リストの展示と啓発グッズやカレンダーの物品販売を行い、たくさんの方が足を止めて繋養先リストをご覧になり、物販も30万円近い売り上げとなりました。1月18日には会場内マルチスペースにて、ホーストラスト鹿児島代表の小西英司氏をゲストにお迎えし、沼田代表と「練習馬を終の棲家へ」と題したトークイベントを行いました。時折雪の混じる寒い一日となりましたが、たくさんの方がお越しください、乗馬をされる方が多くご来場されるイベントだけに、乗馬クラブでお世話になった練習馬のラストステージへと繋ぐ啓発の効果は大きかったと思われます。



川崎競馬場協賛レース



サンクスホースデイズ



Gate J.新橋にて



ホースメッセ 2020

ホースメッセに先だって1月10日に「イベントコンシェルジュ研修」を開催し、15名の方にご参加いただきました。研修では、イベントにご来場いただいた方に、協会が大切にしている「すべての事業において協会が関わった馬は最後まで見守る」という信念を来場者にご理解いただくための活動についての理解を深めていただきました。イベントコンシェルジュ研修は今後も継続的に実施し、イベントのエキスパートを育成していきたいと考えています。



今年度も各イベントではたくさんの会員ボランティアのみなさまにご協力いただき、ありがとうございました。

#### ④ 馬に対する知識を深めるセミナーの実施

前年からの継続事業で、エクワイエンス株式会社の藤本美芽氏を講師に招いて「馬とのコミュニケーションメソッドセミナー」と、それを実践に移す「ワークショップ」を、「タカラハニーの会」代表の山賀充代さんによる会場の交渉の後押しや段取り、馬の提供などの多大なるご協力と、タカラハニーの繋養先のハーモニーファーム淡路のご協力のもと、開催しました。



開催日	内容	開催場所
2019/6/2	第3回「馬とのコミュニケーションメソッドセミナー」	兵庫県・ハーモニーファーム淡路
2019/7/28	第1回「馬とのコミュニケーションメソッド・ワークショップ」	兵庫県・ハーモニーファーム淡路
2019/10/5	第2回「馬とのコミュニケーションメソッド・ワークショップ」	兵庫県・ハーモニーファーム淡路

#### ⑤ ロゴマーク入りオリジナルグッズの制作販売

やまさき拓味理事の「バディプロダクション」所属の早川恵子氏がデザインしたLINEスタンプの商品化などにより、オリジナルグッズの売り上げも順調で、啓発事業として販売しているFHカレンダーを含め、総額約145万円の売り上げがありました。しかしながら3月以降はコロナ感染症によるイベントの中止が相次ぎ、在庫もほとんど動かなくなっています。年度の途中までは大変好調だったため残念です。今後のイベントの開催も不透明なことから、次年度は商品を絞っていく予定です。

#### ⑥ ナイスネイチャ・バースデードネーション

2020年4月16日のナイスネイチャの誕生日から5月15日までの1ヶ月間、「ナイスネイチャ・32歳のバースデードネーション」として寄付キャンペーンを実施しました。「バースデードネーション」とは、お誕生日プレゼントをもらう代わりに応援する団体への寄付をお願いするファンレイジングの手法の

ひとつで、近年の SNS の普及によって広まってきました。4回目となる今年は、「重賞勝ち馬であるにもかかわらず処分されてしまう種牡馬や繁殖牝馬を生かす」ための寄付を呼びかけたところ、クレジットカードやご送金によるご寄付、Facebook や Twitter、ブログでのシェアをいただき、継続寄付してくださっている方を合わせて合計 404 名の方から、目標の 1,600,000 円を上回る 1,763,900 円が集まりました。キャンペーン期間中の単発のご支援だけでなく、継続してご寄付をいただいている方がいらっしゃいますので、今後さらに増える見込みです。

今回のご寄付については 2020 年度の「次の馬生支援」のために使わせていただきます。ご協力くださったみなさま、ご支援くださったみなさまに心より御礼申し上げます。このキャンペーンは今後も継続して行っていく予定です。

#### ⑦ 引退馬預託施設情報の提供

馬を預けたい人のためのプラットフォームとして、ホームページ内に「預託施設情報 INFO」コーナーを開設し、現在 32 の施設の情報を公開しています。掲載している施設は、引退馬協会の推奨するものではなく、あくまで情報提供を目的として、今後もさらに多くの施設の登録を目指しています。

#### ⑧ 「今日もどこかで馬は生まれる」上映会の開催

映像制作サークル「CreemPan」が制作した「今日もどこかで馬は生まれる」の上映会を主催・共催しました。本映画は馬に携わるいろいろな立場の方を丁寧に取材したドキュメンタリー映画で、競馬ファンだけでなく、競馬関係者にも大変注目されました。引退馬協会の主催イベントでは、平林健一監督や撮影を担当された平本淳也氏を交えてアフタートークイベントを実施しました。新冠の上映会では CreemPan との共催という形をとり、鑑賞者を対象に、引退馬を取り巻く課題についての「今」と「これから」を見つめ、人と馬の共生に向けて自分達ができるかを考える意見交換会を行いました。



大阪上映会にて

2019年8月3日	東京・Ginza SOLA	主催:引退馬協会	上映会とアフタートーク
2019年8月10日	大阪・ココプラザ	主催:引退馬協会	上映会とアフタートーク
2019年10月26日	北海道新冠町・レ・コード館	共催:引退馬協会 Creem Pan	上映会と座談会
2019年10月27日	北海道札幌市・シネマカフェ	主催:引退馬協会	上映会とアフタートーク

主催・共催イベント以外でも、Creem Pan 主催のイベントに沼田代表がゲスト出演をし、引退馬について考える場として発信をしました。



### ⑨ 引退馬写真コンテストの開催

準備を進めていましたが、鬣切断事件や新型コロナウイルス感染拡大により、延期しています。

## 3)引退馬ネット事業

引退馬ネット事業は、引退馬協会による対外支援活動です。引退馬の引き取りに関する単発的な相談のほか、サポートホース団体設立などの長期的なサポートを行っています。

### ① 馬の引取り相談・サポート

相談してくる方に、引き取り、預託先の紹介や繋養方法などについてアドバイスしています。現役引退後の引き取りだけでなく、第3、第4の馬生を見据えている方の相談が増えてきました。十分な準備期間と資金の準備が必要なのは変わりません。計画的な引き取りについて、引き続き啓発活動と連携をしながら取り組んで参ります。

### ② 引退馬繋養団体の引取り後の相談・運営サポート

2019年度は新たに3頭がサポートホースに加わりました。レモンホープとゴールドボディは、鹿児島県のホーストラストの保証人を引き受けています。新たにサポートホース団体を立ち上げたハヤテの会は、騎馬隊退役馬で、引退馬協会から千葉県牧場へ譲渡した馬ですが、牧場が閉鎖になることが決まり、引退馬協会に返還していただきました。牧場時代からハヤテのTwitterが大変人気だったことから、見守ってきたファンの後押しもあり、牧場でハヤテの世話を担当していた村石武史氏を代表としてハヤテの会の設立が実現しました。

## 2019年度 新規サポートホースと異動

サポートホース	サポート対象	繋養先及び異動
レモンホープ(レモン)(新)	個人	鹿児島県・NPO法人ホーストラスト
ゴールドボディ(バイン)(新)	個人	鹿児島県・NPO法人ホーストラスト
ハヤテ(新)	ハヤテの会	千葉県御宿町・マーサファーム
グランデラバー	グランデラバーの会	北海道日高町・ヴェルサイユリゾートファームへ移動



レモンホープ(レモン)



ゴールドボディ(パイン)



ハヤテ

サポートホース団体を運営する団体にもJRAの奨励金を還元するべく、サポートホースの医療費助成が始まりました。各団体年額 5 万円を上限として、繋養中のサポートホースの傷病や怪我の治療にかかった獣医療費を助成します。なお、サポートホース団体の運営をする母体の牧場が独自にJRAの奨励金を受給している場合は、二重の助成となるため、支給対象から除外しています。

#### 4)フォスターペアレント(FP)事業

FHが終生穏やかで幸せに元気に暮らせるように支援していただく里親＝フォスターペアレント(以下、FPと記載)制度によって、FH たちを安定していく繋養する、引退馬協会の基幹事業です。里親制度の運営、集いの場の提供、FH の預託など、FH に関わる事業はすべて FP 事業となります。

##### ① 引退馬の繋養を支える里親制度の運営と集いの場の提供

引退馬協会の会員イベントとして、2020 年 1 月 18 日に横浜の赤レンガ倉庫で新年懇親会を開催しました。当日はホースメッセのトークイベント後とあって、たくさんの方にご参加いただきました。今回は、トークイベントにゲストしてお迎えしたNPO法人ホーストラストの小西英司氏と事務局的那須彩子氏に加えて、CreemPan の平林健一氏、平本淳也氏にもご参加いただき、馬談義に花が咲きました。

##### ② FH の繋養

トウショウオリオンが 2019 年 7 月 9 日に頸椎の神経圧迫による起立不全により安楽死となりました。享年 26 歳でした。トウショウ牧場の閉鎖に伴い、2015 年 10 月にフォスターホースとなり、4 年足らずという短い期間でしたが、たくさんの方に愛されて幸せな馬生を送ることができました。ご支援いただいた皆様に改めて御礼申し上げます。



トウショウオリオン

新規のフォスターホースとしてはメイショウドトウとタイキシヤトルの縁が繋

いたタイキフォーチュン(繋養先:本桐牧場)、引退馬問題への取り組みに馬主として大きな風穴を開けることに寄与した飯塚知一氏に託されたルックトゥワイス(繋養先:乗馬倶楽部イグレット)、JRA調教師の大竹正博氏に託された全盲のバンダムテスコ(繋養先:ヒポクリニック)、そして被災馬として見守り続けてきた東日本大震災の被災馬ハーモニーフラ(繋養先:NPO法人ホーストラスト、詳しくは⑥参照)を迎えました。



タイキフォーチュン



バンダムテスコ



ルックトゥワイス

フォスターホースの見学も新型コロナウイルスの影響で休止が相次ぎましたが、現在は少しずつ再開に向かっていきます。

32歳のナイスネイチャは、起立の際に不安が伴うことがありますが、北海道の渡辺牧場で穏やかに過ごしています。メイショウドトウとタイキシャトルは、日高町のヴェルサイユリゾートファームで過ごしています。タイキシャトルが9月の半ばに鬣切断事件の被害を受けて見学中止になり、再開後にはまた新型コロナにより見学休止と、休止期間が長くなってしまいましたが、2頭とも元気に過ごすことができます。エアリカコは沖田忠幸牧場分場にて、サポートホースのミラキュラスらとともにのびのびと暮らしています。

群馬では31歳のキョウエイボーガンが乗馬クラブアリサの中山オーナーご夫妻にかわいがられ、時折体調を崩しながらも、元気を取り戻し、人参を見ると目を輝かせています。

千葉では、25歳になったハリマブライトがハリマを慕うジェニーを従え、腰の治療をしつつも元気に過ごしています。16歳のコアレスピューマは、乗馬としての調教も進み、今では騎乗もできるようになりました。「FHと過ごす日」では、両馬とも、騎乗に、手入れに、講習会のモデルホースにと大活躍しています。

FHの高齢化が進む中、何か異常があった場合には早めに診察を受け、適切な処置を取ってもらうようにし、QOL(生活の質)を維持していくことを重要と考え、必要なサプリメントなどは積極的に用いるようにしています。

### ③ FHに関わる情報発信と会員向け「FHレポート」の発行

FHに関わる情報発信として、FHレポートを、RHA通信を発行した8月、10月、2月、4月を除く計7回(合併号1回あり)、FP会員に郵送及びPDF版で発行しました。この他、会のホームページ内の近況報告ブログとFacebook、Twitterを連動させ、随時、各FHの近況報告を発信しました。

#### ④ FH カレンダー制作販売

「2020年FHカレンダー」は1300部制作し、FP会員に贈呈したほか、2019年10月から昨年と同じく一部900円で販売しました。

掲載したフォスターホース写真の多くをプロカメラマンの朝内大助氏に提供いただき、好評をいただいております。

カレンダーの売上は啓発事業収益に含まれています。また、無償配布分と収益事業の売上分の経費管理のため、税務申告の都合上かかった費用の50%のみカレンダーの経費とし、残りはプレゼント分のため「会員制度」として経費を管理することになりました。

#### ⑤ FH 追悼

北海道ツアー中の9月7日に、静内エクリプスホテルにて、2018年度に亡くなったセントミサイル、マザートウショウ、2019年度に亡くなったトウショウオリオンの3頭の「偲ぶ会」を開催しました。ツアーの参加者のほか、偲ぶ会のために来てくださった方総勢32名で3頭の思い出を語り、偲びました。当日上映した追悼DVDは中央競馬ピーアールセンター提供のレース映像と、在りし日の牧場での写真をおさめ、後日近況報告集とアルバムと一緒にご支援いただいたFP会員の皆様や関係者の皆様にお配りしました。



3頭を偲ぶ会

#### ⑥ 被災馬 FH 繋養

東日本大震災で被災したコッチャン(トーセンクレイジー、13歳)、ハーモニイトセチャン(年齢不詳)を鹿児島に、おにくん(ナイキプラネット、14歳)を福島県南相馬市に被災馬FHとして預託しています。新たに加わったハーモニイフラは、被災馬支援活動における初期の引退馬協会からの譲渡馬として千葉県で乗馬として活躍していましたが、腱が伸びてしまったことにより乗馬を断念し、引退馬協会の所有に戻り、鹿児島島のホーストラストに預託しています。球節が地につきそうなほどですが、日常生活には支障がなく、仲良しの馬もできて生き生きと生活しています。



ハーモニイフラ

被災馬FHの預託にかかる経費は、被災馬支援基金から支出していましたが、基金の残高が減少したため、2015年度からはフォスターペアレント事業として、被災馬FP会員からの会費を中心に支出しています。

### 5) 協賛及び後援事業

2019年度は、実施しませんでした。

## 上記 5 事業から派生するその他事業

### ① 被災馬支援活動

ハーモニイフラが被災馬フォスターホースとして移動する前の預託料とホーストラストの保証金を被災馬支援基金から充てました。引退馬協会が見守りを続けている被災馬は、「被災馬フォスターホース」として受け入れた 5 頭(うちエナコは 2014 年永眠)を除き、28 頭います。うち 1 頭については今後被災馬フォスターホースとして受け入れる予定で見守っています。

### ② 「次の馬生」支援活動

#### (1) ハッピーライフカバー配布

引退後に引き取りたいと思っている馬を行方不明にしないため、気にかけている馬の健康手帳につけるカバーです。2019 年度も、わずかではありましたが、希望された方に配布しました。

#### (2) 次の馬生支援基金(通称:スキャン基金)(騎馬隊・外国産繁殖馬・功労馬)

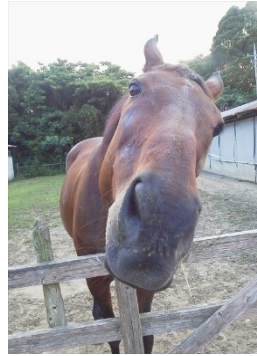
騎馬隊退役時に蹄に大きな問題を抱えていた翔馬(競走名マチカネシログネ)は、愛知県の乗馬クラブで忍耐強い管理をしていただいたおかげで、現在は乗馬として競技会にも出場するまでに回復しました。当初の譲渡先の乗馬クラブクリスから一旦引退馬協会へ所有権を返していただいた上で、エルシー乗馬クラブへ再譲渡をしました。(繋養場所は変わりません。)

千葉県御宿町の鶏卵牧場に引き取られたハヤテ(競走名グランスクセイ)は Twitter ですっかり人気者となっていました。千葉県に甚大な被害をもたらした台風 15 号をきっかけに牧場が閉鎖となり、引退馬協会に一旦所有権を戻していただきました。ハルウララの繋養先の千葉県御宿町のマーサファームに移動した後、サポートホース団体「ハヤテの会」を設立し、再譲渡しました。ハヤテ支援のために集まったご寄付はハヤテのために使う目的を限定した寄付であるため、経費を差し引いた残高【1,089,640 円】は全額サポートホース団体であるハヤテの会に寄付いたしました。

埼玉県越生町の越生馬事苑に引き取られた響輝(競走名ロードシンフォニー)は引退馬協会の所有に戻り、群馬県の乗馬クラブアリスにて管理をお願いしています。「次の馬生支援基金(スキャン基金)」から響輝号の支援に使わせていただきました。基金の残高は、643,513 円です。今後は響輝のためのご寄付も募集していきます。



翔馬



ハヤテ



響輝

### (3) RRC 関連

全国乗馬倶楽部振興協会が、引退競走馬のセカンドキャリアを支援するため、引退競走馬所有奨励競技会として開催している「RRC-引退馬競走杯」をより多くの方に知っていただくため、ホームページで開催日程の情報を発信したり、会員から有志を募って沼田代表、田崎理事と現地観戦をしました。

#### ② 引退馬連絡会

引退馬支援にJRAが舵を切ったことで、連絡会の役割も終了し、現在はホームページを運営するのみになっています。今後活動として継続していくかは模索段階です。

#### ③ 根岸競馬場跡保存活動と協働による啓発活動

今期で4回目となる予定でしたが、会場として毎年お借りしている、馬の博物館とのスケジュールが合わず、やむなく中止としました。前々から必要と考えていた、ステージの背景に使う、小さいですが横断幕を制作しました。

#### その他の事業(営利事業)

2019年度は実施ませんでした。

## 2020年度に向けて

新型コロナウイルスの感染症により、先行きが不透明のため、2020年度は北海道ツアーやふれあい活動の一部を実施しない方向となりました。イベントの開催も縮小を余儀なくされる中ではありますが、フォスターホース繋養、引退馬ネット、再就職支援プログラム、馬セミナー、啓発活動を中心に堅実に活動を続けるとともに、助成金を受給する資格のある功労馬が処分されることなく次の馬生に繋げることができるよう、力を入れて参ります。また鬣切断事件の再発防止と防疫のため、見学マナーの向上にも尽力していきます。

事務局では横浜支部にパート職員を1名採用し、業務量の増加に対応できるようにすると共に、さらなる効率化も図っていきます。

引き続き、ご支援いただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。